



## 第15回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項 本人の思いの意味を知る ～“意思決定支援”の根底にあるもの～

### ●開催要項

今わが国では、障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、そして国連障害者権利条約への批准に向けて調整が進んでいます。これらの動きが意味する根底にあるものは何かと考えると、障害のある方に対する権利を守り、差別のない共生社会を作ることにはほかなりません。

では、そのために最も大切なことは何でしょうか？それは、障害のある方が自らの思いや考えを表出でき、それを周囲にいる人がきちんと受け取り理解する社会になることだと考えます。

私たち全国障害者生活支援研究会（通称「サポート研」）は、障害のある方に対して、その思いを聴き、その人の立場に立って理解することで、さらに意思を表出できるようになると考えてきました。つまり「意思決定」を支援することが権利を守り、本人が自らの意思に基づき主体的に生きることにつながる。まさに「意思決定支援」とは、本人と支援者との間の意思交換のプロセスを通じて行われる、本人を中心に据えた支援のあり方であり、支援の本質だと言えます。その支援を通じて共生社会が実現されると信じています。

それでは「意思決定」を支えるための前提である表出されづらい本人の思いはどのようにして理解すればよいのでしょうか？そのためには、本人と支援者の関係性の中で「人が人をわかるということ」がある、人と人の接する場面（接面）を通じて相手を理解することができる、という鯨岡峻先生（中京大学教授）の考えが手がかりになります。

今回のセミナーは鯨岡先生の考えに基づいてテーマを「本人の思いの意味を知る ～“意思決定支援”の根底にあるもの～」として企画しました。改めて本人の思いの意味を知ることから、障害のある方の支援の本質を考える機会とします。

めまぐるしく移り変わる中、障害者支援の本質について真正面から取り組んでいる当研究会の、年に一度の研究セミナーに、是非ご参加ください。

### ○主催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

### ○後援（予定）

財団法人日本知的障害者福祉協会／日本障害者協議会／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会／特定非営利活動法人DPI日本会議／全国社会就労センター協議会／社団法人全国肢体不自由児・者父母の会連合会／公益社団法人全国精神保健福祉会連合会／財団法人日本障害者リハビリテーション協会／社団法人日本自閉症協会／きょうされん／日本障害フォーラム（JDF）／特定非営利活動法人東京都発達障害支援協会／日本精神遅滞教育研究会／（社）日本自閉症協会／全国自閉症者施設協議会

### ○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方  
（手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください）

### ○募集定員

300名（2日目の分科会につきましては、各室の最大収容人数に達した段階で締め切らせていただきます）

### ○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円 その他 12,000円（学生 6,000円） 懇親会費別途 6,000円  
【1日のみ参加】正会員 6,000円 情報会員 6,500円 その他 7,000円（学生 3,500円） 懇親会費別途 6,000円

### ○申込締切

2014年1月31日（金）。各分科会が定員になり次第締め切ります。総定員300名。

## ○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送またはFAXにてご送付下さい。

申し込み	京王観光 調布支店 (担当: 大野) E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
問合せ先	〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321

## ○日程・会場・内容

### ◎1日目 2014年2月15日(土)

9:30~10:00	10:00~10:10	10:10~12:10	13:10~14:40	14:40~14:50	14:50~17:00	18:00~20:00
受付	開会挨拶	基調講演	講演	休憩	実践報告	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B (30F)						ルーム2

### ●全体会 (10:00~17:00)

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B (30F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

(29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越しください。他のエレベーターは不可。)

### ◆開会挨拶 (10:00~10:10)

赤塚 光子 (当代会長)

### ◆基調講演 (10:10~12:10)

「人が人をわかるということ ~接面の心理学~」

鯨岡 峻 (中京大学教授)

### ◆講演 (13:10~14:40)

「本人主体の意味すること ~当事者の声から考える~」

沖倉 智美 (大正大学人間学部准教授)

山田 憲二郎 (ゆうあい会)

### ◆実践報告 (14:50~17:00)

「本人主体の支援の実際」

岩崎 隆彦 (水仙福祉会姫島こども園園長・大阪) 及び 水仙福祉会支援職員

### ●懇親会 (18:00~20:00)

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム2 (30F)

### ◎2日目 2014年2月16日(日)

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受付	分科会	分科会
新宿NSビル NS会議室 3階会議室		

### ●分科会 (9:30~15:30)

◇会場 新宿NSビル NS3階会議室 (3F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

(2日目の会場へは、エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。)

分科会A: 3M会議室

分科会B: 3H会議室

分科会C: 3J会議室

分科会D: 3G会議室

事務局: 3E会議室

※分科会は、後掲「各分科会のテーマ及び要旨」をご覧のうえ、いずれか一つをお選び下さい。

※会場は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

## ○セミナー事務局

### <全国障害者生活支援研究会（サポート研）事務局>

〒210 - 0848 神奈川県川崎市川崎区京町 2-24-4-608 TEL/FAX 044-271-8788

E-mail [support-ken@forest.ocn.ne.jp](mailto:support-ken@forest.ocn.ne.jp) 担当 村尾・加藤

## ○会場アクセス

### 新宿NSビル

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線 新宿駅 「南口・西口」より徒歩7～8分  
都営地下鉄線（新宿線）・京王新線 新宿駅 「新都心口」より徒歩約6～7分  
都営地下鉄線（大江戸線） 都庁前駅 A3出口 より徒歩約3～5分

## ○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンデーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

## ○各分科会のテーマ及び要旨

### 分科会A 本人の思いを聴く

#### ◆「本人の『声』を聴き、本人の主体、思いを支える関わりについて、実践から考える」

当分科会では、これまで、「本人の声を聴く」ということをテーマとし、障害当事者本人の話を聴くということを中心にセミナーを行ってきました。毎回、自分の学校や施設、仕事などでの体験を通じて思う話を本人から聴くことで、日常の支援における利用者との関わりでは気がつかなかった本人の思いに触れ、本人の声を聴くことの大切さを強く感じてきました。しかし、実際の支援においては、なかなか本人の思いを話として聞くことや、本人の意志に応えることが難しいと感じる場合も多々あります。

今回は、直接に本人の話を聴くのではなく、支援の実際において「本人の声をいかに聴くか」ということに焦点を当て、分科会を開催します。多くの言葉を発することのない人の「声」や、本人の意思をいかに受け止めるかということについて実践発表を行い、その後グループに分かれ、本人の主体、思いを支える支援のあり方について、参加者が日頃の実践において課題としていることや、大切にしていることを互いに出し合い、意見交換する時間を設けます。「本人の主体」を支えることを実践的に考え、明日の支援につながる討議がなされること願って企画します。

- 9:00 受付開始
- 9:30 概要説明
- 9:40 発表1「本人の動機を大切にした支援の実際」  
佐野 良（障害者支援施設 桜の風副施設長・神奈川県川崎市）
- 10:25 発表2「関係のなかで表われてくる主体」～重症心身障害のあるCさんの放つ輝き<sup>2</sup>～  
生活介護事業 おーらい職員（神奈川県茅ヶ崎市）
- 11:15 グループディスカッション「本人の『声』を聴き、本人の主体、思いを支える関わりについて、実践から考える」
- 15:30 終了（途中60分の休憩をはさみます）

## 分科会B エピソード記述

### ◆ひとのこころをエピソードで描くこと

支援者がより良い支援を志すときに、そのふれあいの体験をエピソードに書き、振り返ることは欠かすことが出来ません。その支援とは、どんなやりとりであったのか、その「道すじを辿ること」を通して支援をしているときの支援者の思いやその時に気づいたことを反芻し、書き記すことは次の支援を行う時に有益です。つまり、同じ間違いをして支援を受ける人に嫌な思いをさせないためのデータとなります。しかし、それはエピソード記述の本来の目的とはやや外れるように思います。支援者がエピソードを書くときに支援中には分からなかった本人や支援者自身の思いに気づくことがあります。そしてさらに、書いたエピソードを読み返すときに、それは支援者の感性のフィルターにエピソードをくり返し通すことであり、それは違和感として表れることもあります。微かな気づきが得られるように思います。そのような気づきによって支援を受ける本人の内面や支援者との内面のひびきあい、どう感じ、どう考えたのか、それを支援者はどう受けとめたのか、様々な思い、その意味が書き手を含めた読むひとの目の前に次第に浮かび上がります。次に、そこで描かれたエピソードを支援者間で読み合うことにより一人の支援者の体験を共有し、ひとつの支援を個人の決めつけや都合の良い結論のプレゼンではなく、どんなに素朴に見えるものであっても実態を表す正直な記述を様々なひとの思いに照らし合わせ、それにより意見交換し、支援をより深く吟味し、消化を試み、より多様に検証することこそがより良い支援につながっていきます。

私たち、サポート研エピソード記述研究会は、これまで「エピソードで描く」ことを学ぶためにその提唱者である鯨岡峻先生から「エピソード記述」や鯨岡先生の展開されている「関係発達論」についてのお話を伺ってきました。そして現場から出されるいくつかのエピソード記述の実例について鯨岡先生を中心に、読み解き、参加者全体で議論をする実践を含めたエピソード記述を用いて支援やひと、ひととひととのふれあいの理解と共有を深めるエピソード記述研究の試みを行ってきました。今回も鯨岡先生に来ていただきエピソード記述研究会を行います。また今回は、鯨岡先生への質問の時間を設けます。それは支援者の抱える様々な支援現場の生々しい悩みの事例報告を読み、それを振り返り、深く意味をとらえる実践であり、それを学ぶ機会となることと思います。本人に支援として返していくために、どうぞご参加ください。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明
- 9:45 講義「ひとのこころをエピソードで描くこと」 鯨岡 峻（中京大学）
- 11:30 質疑
- 12:00 休憩
- 13:00 エピソード記述 事例発表とディスカッション
- 15:00 まとめ、アンケート
- 15:30 終了

## 分科会C 行動障害

### ◆行動障害のある人の理解と支援～視点の共有化とチーム作り

今、改めて障害のある人の「意思決定」の支援のあり方が問われています。それは、激しい自傷や他害、こだわりといった、いわゆる行動障害のある人についても同様です。しかしながら、その行動面の激しさの方に目が向けられ、「行動障害のある人にも、意思はある」という当たり前のことが、つい見過ごされてしまいます。

当研究会は、「行動障害の多くは、本人の意思や思いが周囲の人になかなか受け止めてもらえず、さらに不本意な思いや経験を本人なりに耐えようとした結果、つくられたものである」と考えます。行動障害を、「その行動だけに注目し、止めさせようとする」のではなく、「本人と周りの環境（物理的環境と人の環境）との関係に着目し、その人の立場に立って安心できる人間関係を築くこと、その行動の奥にある本人の意思や思いに注目し、その意思や思いを受け止め、本人から見て自分の意思や思いを伝えたい思える人間関係の形成に向けて日々の関わりを根気強く積み重ねていくことで、結果的に緩和されていくもの」と考えるのです。実際にそのような視点を持って、本人に向き合い、本人の意思や思いをしっかり受け止めていけば、激しかった行動は徐々に落ち着き、より伝わりやすい方法で自分の意思や思いを表現できるようになっていきます。このことは現場の支援実践で明らかになってきています。

### チームワーク、そしてリーダーの重要性

しかし、こうした支援は1人の支援者で取り組むにはどうしても限界があります。共感できる仲間、部下、上司の存在と職員のチームワークが重要です。「行動障害をどう理解するか」という支援の基本的な視点がバラバラな状態では、支援者の態度や対応の仕方もバラバラになります。このかみ合わない状態は個々の支援者に大きな葛藤やストレスを与え、支援者同士の人間関係にも大きな影響を及ぼします。何より障害のある当事者にとって良いものではありません。

ここで重要になるのは責任者としてのリーダー・主任の存在です。

ところが、行動障害のある人を支援するチームが互いに協力し合い意欲的に支援に取り組める方向に導くことは、簡単なことではありません。

「チームスタッフにどう伝えればよいか、自信がない」

「毎日の対応に追われて、『基本的視点の共有』まで手が回らない」

「基本的視点が共有できないスタッフが複数いて、ギクシャクしている」

このような悩みや課題を抱えているのが実情ではないでしょうか。

### 今回はリーダー・主任など中堅の支援者が対象

そこで今回、当研究会はリーダー・主任など中堅の支援者を対象にしたセミナーを企画することにしました。とは言っても、一方通行の講義形式ではなく、これまでのように「参加者参加型」「実践者による、実践的に根ざしたディスカッション」を中心に組み立てていきたいと考えています。今、リーダー・主任など中堅の支援者が実践の中にどのような課題に直面し、どのように取り組んでいるのか、またうまく課題をクリアできた例や取り組んだものの良い成果が得られなかったことなど、それぞれの参加者の実践経験を持ち寄って意見交換し合いたいと思っています。

さて、今回のセミナーですが、参加ご希望の方には、「事前のアンケート」にご協力いただきたいと思っています（申し込み後、アンケートを送付いたします）。アンケートは集計させていただき、当日のディスカッションの素材にしていきたいと思っております。全国の、行動障害のある人（または対応の難しい人）を支援しているリーダー・主任など中堅の支援者の皆さん、一緒に課題を明らかにし、明日につながる支援の「一歩」を探りましょう！

9:00 受付開始

9:30 趣旨説明 荒木 大輔（デイセンター山びこ副施設長・東京）

9:45 講演「行動障害のある人の意思決定支援を考える 視点の共有化：その必要性と課題」岩崎 隆彦（姫島こども園園長・大阪）

11:30 質疑応答

11:45 休憩

12:45 グループディスカッション「チームとしての支援力を高めよう ～今、リーダー・主任が直面し、取り組んでいること」

15:00 まとめ 赤塚 光子（サポート研会長、元立教大学教授・東京）

15:30 終了

## 分科会D サポートシステム

### ◆「重度訪問介護とグループホーム制度見直しをふまえ、そのひとらしい個別生活支援を展望する」

厚生労働省の「障害者地域生活推進検討会」において、「重度訪問介護の知的障害者等への拡大、グループホームとケアホームの一元化、地域における居住支援の在り方」が検討されましたが、いよいよ平成 26 年 4 月より施行されます。また、障害程度区分から障害支援区分への変更も実施されます。

重度訪問介護については、行動援護の対象者で障害支援区分 4 以上の人新たな対象となります。同時に、新たな障害支援区分の 1 次判定が知的・発達・精神障害者について改善されそうなことを前提として、行動援護の対象範囲が絞られそうです。

また、一元化されたグループホームは「介護サービス包括型」と「外部サービス利用型」に分かれ、さらに「サテライト型」が加わります。それぞれのタイプにおいて、拡大された重度訪問介護やその他の訪問系サービスをどのように併用できるのでしょうか。

さらにグループホーム、ショートステイ、コーディネーターの組合せによる地域の居住支援拠点が提案されていますが、どのように具体化されるのでしょうか。

これらの新たな仕組みは、多くのサポートを必要とする重度知的障害、自閉症のある人や重症心身障害の人の地域生活支援に、実際にどのように役立つのでしょうか。

この分科会では、新たな制度を活用しつつ、その人らしい個別の暮らしを支援するために、自立生活を含めて多様な地域での暮らしの支援を実現するにはどうすればよいかを共に考える機会にしたいと思います。

多くの皆様の参加をよびかけます

【午前の部】 司会 明石 洋子（あおぞら共生会・神奈川）

9:00 受付開始

9:30 課題説明 柴田 洋弥（サポート研顧問・東京）

9:40 講演「重度訪問介護の対象拡大とグループホーム一元化等の新たな仕組みと展望」

曾根 直樹（厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課障害福祉専門官）

11:00 講演「その人らしい暮らしの支援と新しい制度の活用」

中西 昌哉（ベテスダの家・京都）

12:20～13:20 休憩

【午後の部】 司会 中島 博幸（やまびこ工房・神奈川）

13:20 パネルディスカッション「その人らしい暮らしの支援と制度活用」

春木 歆子（ぴあ・ぱれっと・さいたま市）

名里 晴美（訪問の家・横浜市）

黒田 千珠（風の子そだち園・大阪市）

藤浪 和美（障がい者地域生活支援センター風の輪・大阪市）

※会場からの積極的な発言に期待します。特にヘルパーを利用して個別生活支援を行っている、又は予定している事例等がありましたら報告してください。

15:30 終了

# 第15回 全国障害者生活支援研究セミナー

## セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。  
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2014年2月15日(土)～2月16日(日)
- ★ セミナー会場 2月15日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B  
2月16日(日) 新宿NSビル NS会議室  
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円  
一般 12,000円(学生6,000円)  
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円  
一般 7,000円(学生3,500円)
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム2
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。  
2014年2月14日(金)～2月15日(土)を含む2泊

### ご宿泊施設

<b>新宿ワシントンホテル本館</b> (新宿駅西口駅徒歩約8分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336		TEL 03-3343-3111	
	東京都新宿区西新宿3-2-9		FAX 03-3342-2575	
	シングル	@13,000円	ツイン	@9,000円
<b>新宿ニューシティホテル</b> (新宿駅西口徒歩約14分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約7分</small>	〒160-0023		TEL 03-3375-6511	
	東京都新宿区西新宿4-31-1		FAX 03-3375-6535	
	シングル	@12,500円	ツイン	設定なし

### ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

#### ★ お申し込み方法

セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて1月31日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を2月上旬頃送付させていただきます。

#### ★ お問い合わせ先

〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

**KEIO 旅 京王観光** 京王観光株調布支店

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当:大野

営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)



# 第 15 回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2014年1月31日（金）必着


★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 _____					
		TEL	( )	FAX	( )	
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	2月15日（1日目）のみ	A・B・C・D	参加・不参加
				2月16日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	2月15日（1日目）のみ	A・B・C・D	参加・不参加
				2月16日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	2月15日（1日目）のみ	A・B・C・D	参加・不参加
				2月16日（2日目）のみ		
				両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル		部 屋 タ イ プ
有 無	2/14(金) (前泊)	2/15(土) (当日泊)	第一希望：  第二希望：		1・シングル  2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先  京王観光 京王観光(株)調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：大野

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）